

地域の歴史文化を 活かしたまちづくり

伊能忠敬笹山領測量の道 十二年の歩み

2011年～

研究・探索・測量体験

残された書物などを読み解き、忠敬の測量道を地図に落とし込むことから始め、ガイドマップやガイドブックの作成。これらの研究は小学生向けの「丹波篠山ふるさとガイドブック」にも掲載され、ふるさと教育の一役を担っています。



月2回行われていた伊能忠敬測量道の探索

2012年-2020年

出前教室

史実を伝え、広めるために、市内小学校9校で22回、地域団体には21回、市内広域で出前教室を開催。実際に地域を見て回り、ふるさとの歴史のロマンを再発見する機会となりました。



城南小学校で行われた出前授業。運動場に描かれた道の距離を歩測

2014年3月

200年記念ミニフロア展・特別講演会

伊能忠敬の一行が、丹波篠山を測量した200年を記念に開かれた「ミニフロア展～伊能忠敬が200年前に篠山へ来たよ～」には800人が集まり大盛況となりました。伊能忠敬が測量した地図(伊能大図214枚のうち29枚)の精巧なレプリカを、丹波篠山市民センターのフロアに敷き込み、地図の上を実際に歩き篠山の描写を確認しました。



2015年-2017年

標柱設置

後世に残す形づくりとして、12地区のまちづくり協議会の協力のもと、忠敬が測量した街道各所に、「伊能忠敬笹山領測量の道」と刻んだ標柱を12基建立。その際には(一社)兵庫県測量設計業協会丹波支部のご厚意によりGPS測量が行われ、緻密な記録を残すことができました。

【標柱設置地区】

北新町、糯ヶ坪、西岡屋、日置、福住、西谷、上坂井、追入、大沢、宇土、草野、今田

2018年9月

五国の足跡フォーラムin笹山領

2018年は、伊能忠敬の没後200年。これを機に「伊能忠敬・五国の足跡フォーラムin 笹山領」を開催。摂津、播磨、丹波、但馬、淡路の五国の愛好家による活動報告・意見交換会には160人が参加。翌日の標柱「伊能忠敬笹山領測量の道」を巡るバスツアーには市内外から48人が参加し、案内しました。



伊能忠敬と探索の会の道のり

伊能忠敬は江戸時代に日本全国を測量し、正確な日本地図を作った人物として多くの人に知られています。地球の大きさ、形を知りたかった。測つてみたかったと、ずっと抱えてきた夢を第二の人生で追い続けました。

「伊能忠敬笹山領探索の会」(加賀尾宏一会長)は、2010年10月に丹波の森公苑で開催された「丹波学」で、伊能忠敬を学んだことをきっかけに結成。4人の歴史愛好家が集まり、活動がスタートしました。特に、全国で活躍される伊能忠敬研究会特別顧問の星野尚さんのご協力やアドバイスを受け、活動を進めてこられました。

令和5年1月には地域の歴史文化の振興に多大な貢献を果たしたとして、丹後正俊教育長から感謝状が贈られ、12年間の長年に渡る功績を讃えられました。



伊能忠敬の銅像(東京深川の富岡八幡宮)

ふるさとを愛する人づくり

1814年2月、伊能忠敬は10日間に渡り、笹山領を測量。10日間の滞在には笹山藩からの手厚いおもてなしや、村の人々に不行届きのないよう指示されたという記録が大庄屋園田家に残されています。伊能忠敬がなぜ篠山に10日間も滞在したのか、探索の会もロマンを感じるところです。

そんな探索の会の皆さんの熱心な活動により、丹波篠山が伊能忠敬のゆかりの地として、全国でも注目を集めています。伊能忠敬の生誕の地、千葉県香取市が刊行する市政要覧2018「没後200年記念特別伊能忠敬」の記念誌にも、ゆかりの地として、丹波篠山が紹介されました。全国へ大きく伝えるとともに、伊能忠敬の歴史を通してふるさとを愛する人をつなぐことを大きな使命として活動し、後世に伝える形(標柱や教材)を築きました。



現在、篠山小学校の校長を務められている押部匡子校長は、2012年城東小学校の教諭時代、2017年多紀小学校の教頭時代に、伊能忠敬笹山領探索の会の出前教室に関われました。子どもたちは社会の教科書に出てくる忠敬が校区を歩いたことに驚き、興味関心がどんどん湧いてきたそうです。児童は、夢に向かって努力した忠敬の生き方を知り、学習発表会で多くの方々に発信しました。ふるさとに学ぶ授業では、多くの方々とつながり触れ合う中で、新しい発見があり、楽しく学習する機会となりました。



現在、篠山鳳鳴高校3年生の小林正宗さんは、中学校の夏休みの課題で伊能忠敬について研究しました。標柱を巡り、模造紙いっぱい記事を集めました。2018年に開催された「五国のフォーラムツアー」では、研究した内容を発表しテレビ取材も受けました。小林さんは「とても貴重な経験ができました。これをきっかけに歴史をもっと知りたいと思い、春からは大学で勉強します。そして社会に役立てられたら」と話されました。



丹波篠山市教育委員会文化財課の田中美貴さんは、歴史文化を深める仕事のつながりの中で、「伊能忠敬笹山領探索の会の皆さんは、忠敬が笹山領で行った測量の史実を後世に残すため、歴史を掘り起こし、広め、伝える活動を精力的に行ってきました。市内に伝わる史料から「迎えた側」の様子を知ることができます。大庄屋・園田家の記録「園田家文書」では、忠敬たちをもてなした献立などが伝わっています。また、篠山藩の『藩政日記』にも「測量方」の記録が見つかり、今後の調査で藩側の動向がより詳しくわかるでしょう。加賀尾さんたちが心から願う「地域の歴史文化を活かしたまちづくり」の活動はこれからも続きます」と話されました。



伊能忠敬は老後の19年をかけた日本地図をつくり、加賀尾さんは老後の12年の人生をかけ伊能忠敬を研究し、歴史文化を活かしたまちづくり、ふるさとを愛する人づくりのために、功績を残されました。御年85歳のパワーあふれる加賀尾さんたちの、今日までの活動のおかげで、多くの方が丹波篠山の歴史を感じることができました。また新しい地域の歴史文化の発見も期待していきたいと思います。



特集 情報ピックアップ タウンピックス HOTトピック 市政リーダー インフォメーション 施設情報・相談 はぐくみ 街かどレポート まちの話題 栄光輝く